

このページは、小・中学生に向けて
 梅光学院大学子ども学部子ども
 未来学科(地域共生ゼミ)の学生が
 作っています。

しものせき キッズページ

「下関の文化財②」

～長門一宮 住吉神社～



▲重要文化財の拝殿。補修を繰り返しながら、建築当初の姿を保っています。

一宮住吉一丁目にある「長門一宮 住吉神社」は、その本殿が国宝に、拝殿が重要文化財に指定されており、住吉神社の建造物の多くが大変貴重なものと言われています。今回は、その住吉神社を訪ね、神職の方に話を聞きました。

住吉神社の歴史

住吉神社は、古くから長門一宮として人々から信仰されてきました。住吉大神は、伊邪那岐命が黄泉の国(死の世界)から帰って身体を清められた時、出現された神様と言われています。住吉神社の起こりは、西暦200年

とされています。神功皇后が大陵へ攻めていった時、勝利へと導き守った住吉三神の「荒魂」を祭り、国の守護としたそうです。その後、1370年に社殿(現在の本殿)が、1539年に拝殿が建てられました。

住吉神社本殿(国宝)と 拝殿(重要文化財)

昭和28年に国宝に指定された住吉神社の本殿は、1370年、大内弘世によって建てられたもので、室町時代前期の代表的な建造物です。厚東氏を滅ぼして防長両国(現在の山口県全域)を治めた大内氏は、厚東氏との戦いの勝利を祈願したこの住吉神社に、社殿(現在の本殿)を建てたのです。その本殿には、五柱(※1)の御祭神が祭られています。第一殿(※2)には、お払い・交通・開運の神様である住吉大神が祭られており、第二殿には産業の神様である応神天皇が、第三殿には長寿の神様である武内宿禰命が、第四殿には、安産の神様である神功皇后が、第五殿には、武道の神様である建御名方命が、祭られています。大内氏に代わり、防長を支配した毛利元就も、住吉神社を敬つて

いました。その毛利氏が1539年、住吉神社拝殿を建てたのです。拝殿は、床が低く、中は吹き放ちとなつています。「組物」は、飾りであると同時に軒を支え、屋根の重みを分散させる役目も果たしています。数少ないたて長の拝殿としてとても貴重なものです。

皆さんもぜひ、住吉神社を訪れてみてください。

※1: 神様を数える際は、一柱、二柱というように柱と数えます
 ※2: 本殿を正面から見ると左から右へ、第一殿、第五殿と数えます

特殊神事「和布刈祭」

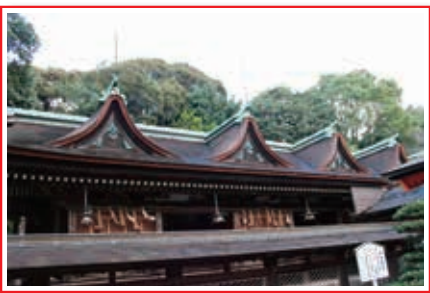
旧暦の元日(今年は1月31日)に和布刈神社(福岡県北九州市門司区)と一緒にされる神事です。住吉大神を祭られた時、踐立の命(和布)を刈って、神前にお供えをしたことから始まります。

この神事は誰にも見せないように行われ、見た人は目がつぶれるといういわれがあります。これが終わった後、お供えをしたわかめを「開運わかめ」として、お参りしてきた人に渡されます。

住吉神社(☎256-2656)
 住所 一の宮住吉一丁目11番1号



1月号のイラスト・編集記者(左から)西田智則さん、元村慎吾さん、武下侑介さん。



▲国宝の本殿。「九間社流造」の屋根に山形の「千鳥破風」が5カ所のある他に例のない建物です。



▲武内宿禰命お手植の楠。根回りは60メートルにも及ぶ大木です。クスノキは市の木です。